

にいがた

新潟県老人福祉施設協議会広報誌

2019.7.20 NO.36

ろうしきょう NEWS

卷頭シリーズ・元気な笑顔が素敵！すまいる介護ウーマン



1

居室の窓や屋上などから、園を囲む魚沼の水田と山々が見渡せる。夏に向けて濃くなる緑陰、広い青空、川の流れが素晴らしいコントラスト。

無理しないでどうぞ
声をかけて頂けます。
体を大事に長く仕事を
続けたい。



2

園の一画にある菜園と休憩所。散歩コースになっていて、近くの川からせせらぎが聞こえる。



③「優しさと思いやり」。うおの園の基本理念です。

■忘れられないこと 以前担当した入所者様で、重い認知症の方がおられました。寝ない、大声を出すなど、同居されていました息子さんのご家庭は大変な状態だったようです。

私も最初は「お前じやダメだ、他の人を連れて来い！」。それでもあきらめないで、家について行つたり、奥さんの墓参りをしたりする中で、少しづつ変わられました。亡くなる少し前、今までやつたことがないというので、入浴の時、息子さんに背中を流してもらいました。後からお手紙で「ありがたいことでした」と言われたことは忘れません。

■今後の自分 認知症などで疎まれて入所される方もいます。私は面倒なお世話を引き受け、その方のご家族に、もう一度家族の形を取り戻す「お手伝いがしたい。そんな頼りがいのある介護士になりたいと思います。

職員、ご家族、みんなに愛着を持つて
仕事ができる幸せ。

一番の自慢は、この素晴らしい風土です。

すまいるウーマン 今井久美子さん

○所属 特別養護老人ホーム うおの園
○経歴 1987年4月長野県野沢温泉生まれ 北陸学園～長野県栄村の特養～結婚を機に、2018年4月より現職。ご主人も同じ系列の施設に勤務。介護福祉士。
○趣味 お酒・旅行(夜勤明けの韓国弾丸ツアーなど)



3

施設は全室個室。写真のリビングもゆったりした空間だ。施設入り口そばに地域交流スペースが備えられていて、地域の方との交流も盛ん。



特別養護老人ホーム うおの園

○社会福祉法人 魚野福祉会
○特別養護老人ホーム 70名
ショートステイ 16名
○新潟県魚沼市原虫野438-4
TEL 025-792-1096
URL <https://uonofukushikai.or.jp/>

家族の形を取り戻すお手伝い。

■就職の理由 子供の頃、祖父が重度の脳梗塞で祖母が介護していました。民生委員の方が「この市内で一番、在宅介護で頑張った」と言われるくらい。みんなで支援して、私その一端を担えたことが介護職を選んだきっかけです。学校の指導は厳しかつたけれど、小さいときからやりたい仕事をだったので、耐えられたんだと思います。

■仕事のポイント 大事だと思うことが三つあります。①「ありのままいいですよ」。相手の気持ちに寄り添うケアを。②「口で言えない人にこそ、気づきを」。たとえば、寒さは大敵ですが感じにくかったり、口に出せないこともあります。そんな時、踵が赤くなっているか観察するようになっています。

●●新役員の顔ぶれ●● 就任のご挨拶

会長



5月29日の総会及び理事会で、引き続き会長を務めさせていただくことになりました。今後ともよろしくお願いします。

私たちの福祉業界では、相変わらず人材不足が続いています。新潟県からもご協力いただき対策を進めていますが、介護は単純労働に位置づけられているのが現状です。

新潟県老施協では介護力向上研修を通じ、施設においておむつ外しの実践を推奨し、その成果が多く現れています。介護のプロのチームはこのようなことを可能にします。私たちの福祉の仕事は、単純な仕事ではないことを地域の皆さんにしっかりと伝えていく事が新潟県老施協としての使命だと思っています。そのため会員施設の人材育成と地域貢献に力を入れていきたいと思います。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

高橋是司 (たかはし せいじ)
在宅介護支援センター白ふじの里 センター長

業務執行理事



このたび、理事に就任いたしました阿部と申します。

長年第1ブロック部会でお世話になっておりましたが、これまで以上の重責に対し身の引き締まる思いであります。

さて、今介護施設において切実な問題として、やはり人材確保の難しさではないでしょうか。新卒者、中途採用と全く採用に至らない状況であります。そしてこの問題は、地方に行けば行くほど深刻な状況で地域差も大きいように感じております。

このような問題を始めとして様々な課題を、会員施設皆様からご意見を伺いながら、微力ではありますが皆様と一緒に少しでも改善に繋がるように取り組んで参りますので、よろしくお願い申し上げます。

阿部利昭 (あべ としあき)
特別養護老人ホームとっさか 施設長



この度、第2ブロックより理事を拝命致しました。特養での施設長経験が4年、ブロック部会運営委員として2年努めさせていただいた経験しかない中で、このような大役を仰せつかり身の引き締まる思いでございます。

介護人材不足が深刻さを増す状況のもと、職員の離職防止や外国人介護人材の確保、業務のICT化等、我々事業者が対峙する喫緊の課題は少なくありません。こうした課題解決に向け、会員の皆様に寄与できるよう様々な取り組みを進めていければと考えております。微力ではございますが誠心誠意対応させていただきますので、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

廣瀬哲也 (ひろせ てつや)
特別養護老人ホーム愛宕の園 施設長

企画研修 第1回研修会

令和元年5月24日(金)



次世代を担う初任者を対象に、下記の内容で研修会を実施しました。

講義I 「福祉職員が身につけておきたいビジネスマナー」

講師：ビジネスマナーインストラクター 産業カウンセラー 福原純子 氏

講義II 「記録の重要性と具体的実務」

講師：社会福祉法人長岡三古老人福祉会 研究・研修センター福住 センター長 遠藤真一 氏

参加者の声

特別養護老人ホーム桃山園 介護士 宇野智哉

私は介護の職について8年目です。

この研修を通して、日々の業務の振り返りや新たな知識を得るために、参加しました。

ビジネスマナーでは、講師の方が「笑顔や口角が上がっていること」などの視覚情報と話し方の聴覚情報とが第一印象であり、9割が第一印象で決まると言った。私自身日頃の言動や行動を振り返ると、相手に伝わるような話し方をしていたのか反省させられた。そして、その基本はコミュニケーションであることを再確認した。

記録の講義では「情報共有」「万が一の事態に備え、自分を守る」という記録の重要性を知り、今まで書いていた記録は日記のようなもので、穴埋め的なことに気づきました。たとえ、記録があっても内容が良くなければ情報として伝わらないので「客観的」「箇条書き」など分かりやすく書く必要があり、今後は意識して記録していきます。

第1回管理者研修会

令和元年5月29日(水)



今年度第1回定時総会後、「特別養護老人ホームの現場からみた高齢者福祉の変遷 これからの実践に求められているもの」と題した東京都高齢者福祉施設協議会 会長 西岡 修 氏の講演と、公益社団法人全国老人福祉施設協議会 理事 角田充由 氏からの情勢報告がありました。

参加者の声

老人デイサービスセンター岩室 管理者 深澤由美子

福祉施設の現場では「人手が足りない」という問題を抱えています。そういう状況の中で、福祉とは？介護とは？誰のための支援なのか？と自問自答しながら日々の業務を行なっていました。一人ひとりの高齢者を大切にした、ご利用者主体の支援を実践したいと思いながらも本来の目的を見失っていたように思います。研修会では、高齢者福祉制度の変遷をとおし、「原点に立ち戻ることの大切さ」を再確認し、現状の振り返りと新たな気付きを得ることが出来ました。

介護保険制度の創設以降、介護を取り巻く環境の変化は大きいですが「初心を忘れず」社会福祉の仕事に自信と誇りを持ちながら、ステップアップを目指したいと思います。さらに制度の中で専門性を高め、ご利用者本位のQOLを軸としたケア概念の確立に取り組んでいかなければならないことを改めて痛感しました。



第24回新潟県老人福祉施設研究大会

令和元年9月10日(火)～11日(水)

新時代「令和」につなぐ

～介護イノベーションと忘れない福祉の心～

記念講演Ⅰ

「歌うこと、演じること、そして生きること」

女優 倍賞千恵子 氏

記念講演Ⅱ

「地域の未来を切り開く福祉の心」

社会福祉法人 佛子園 常務理事 村岡 裕 氏

■第1日目【全体会】

9月10日(火) 13:00～16:50

■第2日目【分科会】

9月11日(水) 9:30～15:30

■会場

【全体会】糸魚川市民会館（糸魚川市一の宮1-2-1）

【分科会】糸魚川市民会館（糸魚川市一の宮1-2-1）

ホテル国富アネックス（糸魚川市大野298-1）

ヒスイ王国館（糸魚川市大町1-7-11）

施設(うち)の一品

第1ブロック

特別養護老人ホーム垂水の里

垂水の里は、「食」や「温泉」を活用した健康の保持・増進を目指しています。

食事では、毎月誕生日会食として四季折々の郷土料理を提供したり、選択食やラーメン屋台、そば打ち、おやつバイキング等、食べる喜びや選ぶ楽しさを味わってほしいと考えています。当施設の一品は、「笹団子作り」です。毎年6月になると、地元の婦人会や湯の花会の皆様と一緒に新潟の名産でもある笹団子作りをします。紐の結び方が違っていたり大小さまざま、また、あんこがはみ出していたりと個性豊かな笹団子が今年も沢山出来上りました。ご利用者からは、「久々にしたけど、手が忘れてなかったな。」「もう一つ食べたい。」と大変好評でした。
(担当：川原由佳)



第4ブロック

ケアハウスやまなみ

ケアハウスやまなみは、畑で収穫される食材を活用しながら、入所者・職員・調理の方々の手を借りて食事つくりをしています。

季節ごとの食材を使用することで、皆様の食べる意欲、楽しみ、身体つくりに繋がっているように思います。

今回は6月の野外食、やまなみ産のいちご・アスパラ・入居者がもんで干してくれたぜんまい・入居者から頂いた、あんにんごを使用したお弁当を、入居者家族、訪問者を招き、庭に食席を設けて、風を感じ、花々を愛でながら頂きました。

(担当：星 真帆子)



施設(うち)の自慢

第2ブロック

特別養護老人ホーム 新潟あそか苑



職員が笑顔で働くことでご利用者様も自然と笑顔が増えて、明るい雰囲気の施設になっていると思います。施設にお越しの際は、ぜひ笑顔いっぱいの雰囲気を感じていただければと思います。

(担当：杉田雅俊)

施設(うち)の自慢と聞かれると思い浮かぶのが職員の笑顔です。当施設の介護目標で「笑」というものがあります。今、働き方改革と言われ様々な取り組みがされていますが、当施設ではハッピーパートナー企業に登録し、男女共に働きやすい環境作りを心がけています。

例えば、育児など家庭事情によって急な休暇を取らなければいけないことがあると思いますが、職員同士「お互い様」と声を掛け合い笑顔で働いています。



「ONの私」 「OFFの私」



第3ブロック
特別養護老人ホームおごしの里
介護職員

角山絵美さん

ご利用者の皆様と一緒に様々なレクリエーションや制作活動を行っておりますが、角山絵美さんは、ご利用者はもちろんですが、職員も楽しめる「折り紙アート」の先生です。数年前に知り合いの方が開催していた折り紙アートの教室に通われ、現在は指導できるまで上達しました。持ち前の明るさで活動も楽しませるため、ご利用者や職員にも大人気です。自分の作品を展覧会で紹介したり、ご利用者とともに地域行事に出展する作品を制作したり、ご利用者と季節を感じながら仕事の中でも楽しんでいます。

（紹介者：桑野美和）



第5ブロック
特別養護老人ホームふくがくの里
介護職員

佐藤富希さん

この職についてまだ3年目なのですが、趣味の陶芸は始めてから19年目になりました。主に動物モチーフの置物や灯り、食器、花器を作っています。作品作りも良いのですが10数名いる会の仲間との会話も楽しく続けています。新しい作品がなかなか作れないこともあるのですが、土から形にした物を窯から取り出す時は格別ですし、毎日の食事を自作の器でして、暗くなると灯りのスイッチを点ける、という楽しみもあるのが焼き物の良い所だと思います。

（紹介者：伊藤圭祐）



あたりまえの暮らしを、ずっと..

ケアハウスベルセゾン新発田 施設長

竹内 弘子さん

●施設長リレーコラム●



ケアハウスベルセゾン新発田は、新発田市内から北へ車で20分の所に位置しており、“日本三大不動尊の1つである菅谷寺”や“日本で1番小さい山脈のくし形山脈”などがある自然豊かな所です。「ベルセゾン」とは「美しい四季」という意味であり、入居者様に正に四季折々の景色を居ながらにして楽しんで頂いております。

施設内にはケアハウスの他にデイサービスセンター、ヘルパーステーションを併設しており快適な生活を送って頂けるよう日々努力しております。

ベルセゾンでは「施設の年間行事」を開設以来なるべく欠かすことの無いように取り組んでいます。それは、施設の行事は利用者様に季節を感じて頂くために大切なことと捉えているためです。1月年始めには「新年のお茶会」としてお抹茶と和菓子を楽しんで頂き、夏にはご家族と一緒に夏祭りを、秋には施設内の畠で収穫した里芋をふんだんに使い芋煮会を実施して楽しんで頂いております。12月のXmas会ではツリーに飾るクッキーを入居の皆様と一緒に作ります。このクッキーは60年前私が母と一緒に子供の頃に作り始め、その後我が子と共に作りそして現在は入

居者様と続いており感慨深いものがございます。また、時期に合わせた行事食や選べるセレクトメニューなどもご好評を頂いております。

毎月の行事としては「お習字教室」、「折り紙教室」など、ボランティアの講師をお招きして実施しています。最近メディアなどでアロマオイルやハーブ等よく目にしますが、当施設ではアロマアーティストの資格を持つ職員が「ハーブ教室」を行っております。どの教室も10年以上続けております。利用者様それぞれ趣味の話に花が咲き盛り上がっておられます。

また法人全体の行事として、プロの演奏者によるクラシックコンサートを市民の皆様に毎年楽しんで頂いております。なかなか普段生演奏を聞く事がない入居者様も聴衆として参加され素晴らしいと感動されております。

来年当施設は開設20年目の節目を迎えますが、今後ともベルセゾン新発田は入居者様が少しでも長く自立した生活を安心して続けていかれる事を願い、お食事、健康管理、生活相談等を全力でサポートさせて頂く所存でございます。



新発田城お花見



紅葉狩 ドライブ



新年のお茶会



クリスマスクッキー作り



ボランティアによる
催物



敬老会

事業所所在地

新発田市大字下石川字諏訪前713

運営事業者

社会福祉法人 御幸会

事業所の種類

ケアハウス

定 員

60名

連絡先等

TEL 0254-31-2222

FAX 0254-31-2223